

開催都市マークについて

1 概要

- 2016（平成28）年5月、ラグビーワールドカップの運営受託会社であるラグビーワールドカップリミテッド（RWC L）とラグビーワールドカップ2019組織委員会で協議し、開催都市マークを決定
- 開催都市マークは、ラグビーワールドカップ2019™の各開催都市（東京都など12都市）が、2019年大会のPRや、開催気運の盛り上げに使用

2 開催都市マーク



- ・ 開催都市ごとに日本語版、英語版の2パターン
- ・ 色は青竹の色を基調に各開催会場のピッチの芝生をイメージ

(参考) ○ プラウドホストマーク



日本ラグビーフットボール協会を中心とした協会関係や国の省庁が使用

○ チームキャンプ地マーク



公認チームキャンプ地として選定された自治体で使用

3 開催都市マークの活用

＜開催都市としての気運醸成＞

- 都や区市町村が実施する関連イベントなどにおいて、開催都市マークを用いたのぼり旗やグッズを幅広く活用すると共に、ホームページやデジタルサイネージ等を利用したPRに活用し、2019年大会の成功に向けて、開催気運を醸成
- 6月25日のラグビーテストマッチを皮切りに様々な媒体で展開

	6月	7月	8月	9月以降
のぼり旗		都及び区市町村の庁舎、施設、イベント等で掲出		
ホームページ		局ホームページ掲出開始		
デジタルサイネージ		デジタルサイネージ掲載開始 都庁第一本庁舎、新宿駅西口等で展開		
クリアファイル		● ラグビーフェスティバル2016&TOKYOで配布		都や区市町村のイベントで配布

＜12開催都市等との連携＞

- 各開催都市で行うイベント等においても、開催都市マークを用いたのぼり旗などを活用し、組織委員会、日本ラグビーフットボール協会、各開催都市と連携した大会のPR、気運醸成等を実施